

令和8年度 2年生

久御山高校

シラバス

【科目案内と学習内容】

京都府立久御山高等学校

令和8年度 2年生シラバス

目 次

国語科	・・・・・・・・・・・・・・・・	2-01
地歴・公民科	・・・・・・・・・・・・・・・・	2-05
数学科	・・・・・・・・・・・・・・・・	2-09
理 科	・・・・・・・・・・・・・・・・	2-13
保健体育科	・・・・・・・・・・・・・・・・	2-17
芸術科	・・・・・・・・・・・・・・・・	2-21
英語科	・・・・・・・・・・・・・・・・	2-24
家庭科	・・・・・・・・・・・・・・・・	2-27

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-02	国語	論理国語	2	A理・P	2	必修

何を学ぶか

- 1年次での学習を踏まえ、より高度で論理的な文章や実用的な文章を学習する。「読むこと」・「書くこと」を中心に取り組む。

学習目標

- 実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。
- 論理的に考える力や深く共感する力を伸ばす。
- 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広めたり深めたりする。
- 言葉の論理性への認識を高め、理解できる能力を養う。

学習方法

使用教科書【東京書籍702 精選 論理国語】

予習では漢字や語句の読み方・意味を調べておく。
 授業では予習内容を確認し、読解のポイントの理解に努める。
 目的や場に応じて様々な観点から意見をまとめ相手の立場や考えを尊重して適切な表現や論理構築ができるようにする。

評価方法

知識・技能 40% : 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 40% : 定期考査、学習課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20% : 各種課題、振り返りシートへの取り組み状況等により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
読む	芸術について考える	■	■	■	■	■	■																														
	生き方・自己について考える	■																																			
	言語について考える	■																																			
書く	書き方の基礎	■																																			
	意見文	■																																			

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-03	国語	古典探究	2	S・A文	3	必修

何を学ぶか

- 1年次の学習内容を踏まえ、古典作品の学習を通して知識や理解を深めるだけでなく文化的社会的背景などに目を向け、より深い学びにつなげていく。
- 上代から近世の作品に触れることで豊かな感性や情緒を育てる。

学習目標

- 作品理解や内容理解だけでなく、文法、句法などを理解し応用することによって、より高い知識、理解を深める。
- 作品そのものだけでなく、その背景となる事柄にも目を向け日本語文化を担うことができるようになる。

学習方法

使用教科書【東京書籍701 新編古典探究】

- 予習では、本文の通読だけでなく語句や文法事項を調べておく。
- 自分で現代語訳ができるように重要事項の理解だけでなく、実践するように努めること。

評価方法

知識・技能 50 % : 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 30 % : 定期考査、学習課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 授業プリントやノート、課題等の提出、振り返りシートへの取り組み状況によって評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月				
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬					
古文編	説話	/				■	■	■	■				/	/	/										/	/	/								/	/	/		
	文法	/	■	■	■	■	■	■	■				/	/	/			■	■						■	■	/	/	/							/	/	/	
	歌物語	/											/	/	/									■	■	■	■	/	/	/							/	/	/
	日記	/											/	/	/											/	/	/	■	■	■	■	■				/	/	/
漢文編	史伝	/										■	■	/	/	/			■	■	■					/	/	/								/	/	/	

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-04	国語	古典探究	2	A理・P	2	必修

何を学ぶか

- 1年次の学習内容を踏まえ、古典作品の学習を通して知識や理解を深めるだけでなく文化的社会的背景などに目を向け、より深い学びにつなげていく。
- 上代から近世の作品に触れることで豊かな感性や情緒を育てる。

学習目標

- 作品理解や内容理解だけではなく、文法、句法などを理解し応用することによって、より高い知識、理解を深める。
- 作品そのものだけでなく、その背景となる事柄にも目を向け日本語文化を担うことができるようになる。

学習方法

- 使用教科書【東京書籍701 新編古典探究】
- 予習では、本文の通読だけでなく語句や文法事項を調べておく。
 - 自分で現代語訳ができるように重要事項の理解だけでなく、実践するように努めること。

評価方法

- 知識・技能 50 % : 定期考査、小テスト等により評価する。
-
- 思考・判断・表現 30 % : 定期考査、学習課題等により評価する。
-
- 主体的に学習に取り組む態度 20 % : 授業プリントやノート、課題等の提出、振り返りシートへの取り組み状況によって評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬				
古文編	説話	/				■	■	■	■				/	/	/										/	/	/							/	/	/		
	文法	/	■	■	■	■	■	■	■				/	/	/			■	■					■	■	/	/	/							/	/	/	
	歌物語	/											/	/	/									■	■	■	■	/	/	/						/	/	/
	日記	/											/	/	/											/	/	/	■	■	■	■	■			/	/	/
漢文編	史伝	/										■	■	/	/	/			■	■	■					/	/	/							/	/	/	

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-05	地理歴史	地理総合	2	S・A・P	2	必修

何を学ぶか

①現代の地理的な諸課題をグローバルな視点から考察し、自らがどのように行動すべきか考える力を養う。
②地図や地理情報システム(GIS)を用いて、実践的な地理的技能を学ぶ。

学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に、主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の優位な形成者に必要な公民としての資質・能力の育成を目指す。

学習方法

使用教科書【帝国書院902 高校生の地理総合】【帝国書院901 新詳高等地図】

①教科書に沿いながら学習を進め、授業に関連する出来事に関心を持つ。
②テーマに沿ってグループ学習、討論、GISを用いた作業を行う。

評価方法

知識・技能 40% : 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 40% : 定期考査、課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20% : 各種課題、振り返りシートへの取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
地図でとらえる現代世界	地図と地理情報システム	■	■																																		
	結びつきを深める現代世界				■	■	■	■																													
国際理解と国際協力	生活文化の多様性と国際理解											■	■																								
	地球的課題と国際協力																																				
持続可能な地球づくりと私たち	自然環境と防災																																				
	生活圏の調査と地域の展望																																				

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-06	地理歴史	歴史総合	2	P	2	必修

何を学ぶか

- ① 近代史・近現代史を中心に世界と日本の歴史を学ぶ。
- ② 「近代化」の時代を学ぶことにより国家の成り立ちを学ぶ。
- ③ 「国際秩序の変化や大衆化」について学ぶことで二度の世界大戦の展開・結果について学ぶ。
- ④ 「グローバル化」という視点から現代の世界規模の諸問題について学ぶ。

学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。

学習方法

使用教科書【山川出版901 歴史総合 近代から現代へ 改訂版】

- ① 教科書に沿いながら学習を進め、授業に関連する出来事に関心を持つ。
- ② テーマに沿ってグループ学習や討論を行う。

評価方法

知識・技能 40% : 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 40% : 定期考査、小テスト、各種課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20% : 各種課題、振り返りシートへの取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
近代化と私たち	結びつく世界	■	■																																		
	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立				■	■																															
	明治維新～帝国主義							■	■	■	■																										
国際秩序の変化や大衆化と私たち	第一次世界大戦と大衆社会																																				
	経済危機と第二次世界大戦																																				
	戦後の国際秩序と日本の改革																																				
グローバル化と私たち	冷戦と世界経済																																				
	グローバル化する世界、現代の課題																																				

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-07	地理歴史	日本史探究	2	S・A文	4	選択

何を学ぶか

- (1) 原始古代から近世までの日本の歴史を学ぶ。
- (2) 日本の歴史に関する出来事の意義や、文化の特色・伝統への理解を深める。
- (3) 複雑化した国際社会の中で生きる日本の方向性について考察する。

学習目標

- 原始古代からの日本史展開を世界の歴史と関連づけた総合的視野に立って探究し、自国の歴史や文化・伝統への認識と誇りを深めるとともに、歴史的思考力を養い、国民としての自覚を持って複雑化した国際社会の中で主体的に生きる資質・能力を培う。

学習方法

使用教科書【山川出版社705 詳説日本史】

- (1) 世界史や地理、政治経済などの地歴公民科の小教科との連携を図る。
- (2) 国際関係を重視し、広い視野から多面的・多角的に歴史的事象を総合的に探究する。
- (3) 資料集を活用したり、様々な情報(新聞やインターネットなどで)を収集し、考察する。
- (4) ノートに授業内容をまとめ、配布されるプリント類を添付して、日本史ノートを作成する。
- (5) 文化史に関するプリントを、教科書・資料集を活用して完成させる。

評価方法

知識・技能 40% : 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 40% : 定期考査、各種課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20% : 授業ノート、振り返りシート、各種課題への取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
日本史 探究	原始・古代	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
	中世	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
	近世	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-09	数学	数学Ⅱ	2	S	4	必修

何を学ぶか

- ・数学Ⅱは式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分と積分を学びます。
- ・定理や公式を証明し、それらを使って具体的な問題に応用していきます。

学習目標

- ・基礎的な知識の習得と問題を解く力の習熟を目指します。
- ・事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、それらを活用する態度を育成します。
- ・数学的な考え方や論理的思考力を養います。

学習方法

使用教科書【数研出版711 新編 数学Ⅱ】

- ・予習は、教科書に目を通し、例題の解法について理解に努め、疑問点をまとめます。
- ・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題を解くと、さらに理解が深まります。
- ・毎日続けることが大切です。

評価方法

知識・技能 40% : 定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度を中心に評価します。

思考・判断・表現 40% : 定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度を中心に評価します。

主体的に学習に取り組む態度 20% : 課題学習等の提出状況、及び学習の振り返りや授業中の取り組み状況を中心に評価します。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月				
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬					
数学Ⅱ	式と証明・方程式	■	■	■	■	■	■																																
	図形と方程式																																						
	三角関数																																						
	指数・対数関数																																						
	微分法と積分法																																						

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-10	数学	数学Ⅱ	2	A	4	必修

何を学ぶか

- ・数学Ⅱは式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分と積分を学びます。
- ・定理や公式を証明し、それらを使って具体的な問題に応用していきます。

学習目標

- ・基礎的な知識の習得と問題を解く力の習熟を目指します。
- ・事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、それらを活用する態度を育成します。
- ・数学的な考え方や論理的思考力を養います。

学習方法

使用教科書【数研出版711 新編 数学Ⅱ】

- ・予習は、教科書に目を通し、例題の解法について理解に努め、疑問点をまとめます。
- ・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題および副教材の例題を解くと、理解が深まり、応用力がつかます。
- ・毎日続けることが大切です。
- ・進学に向けた取り組み(講習等)に積極的に参加することで実践力を高めます。

評価方法

知識・技能 40% : 定期考査、課題テスト、小テスト等による目標への到達度を中心に評価します。

思考・判断・表現 40% : 定期考査、課題テスト、小テスト等による目標への到達度を中心に評価します。

主体的に学習に取り組む態度 20% : 課題学習等の提出状況、及び学習の振り返りや授業中の取り組み状況を中心に評価します。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
数学Ⅱ	式と証明・方程式	■	■	■	■	■																															
	図形と方程式	■																																			
	三角関数	■																																			
	指数・対数関数	■																																			
	微分法と積分法	■																																			

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-13	理科	地学基礎	2	A文	2	必修

何を学ぶか

- ・日常生活や社会との関連を測りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、観察、実験などを通して、地学の基本的な概念や原理・法則を学習する。
- ・地球の環境の変化、日本の自然環境とその恩恵や災害などの地球や地球を取り巻く環境について学習する。
- ・地球や地球を取り巻く宇宙について、原初の形成過程や現在までの変遷を時間のながれをとらえながら学習する。

学習目標

- ・日常生活や社会との関わりについて興味を持ち、地球や地球を取り巻く環境への科学的な見方や考え方を養う。
- ・実験や観察の結果を考察するために、表やグラフなどから正確な情報を読み取る力を養う。
- ・地学的に探求する能力を育むために、地学の基本的な概念や原理・法則を理解する。

学習方法

使用教科書【数研出版901 改訂版 高等学校 地学基礎】

- ・授業前に必ず教科書に目を通しておくこと。またその際、図表・グラフ・写真などについても目を通し、専門用語やわからない語句があれば調べておくこと。
- ・授業中は教員の説明をよく聞き、分からない所はその時間内に解決すること。
- ・実習・実験には興味関心を持ち、積極的に参加すること。
- ・実験レポート等の課題や提出物は丁寧に作成すること。

評価方法

知識・技能 50% : 【定期考査・小テスト】

思考・判断・表現 30% : 【定期考査・実験レポート】

主体的に学習に取り組む態度 20% : 【授業課題・提出物・実験レポート】

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月					
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬						
地学基礎	活動する地球	■	■	■	■	■	■	■	■																															
	移り変わる地球	■											■	■																										
	大気と海洋	■																																						
	地球の環境	■																																						
	太陽系と宇宙	■																																						

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-20	保健体育	スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ	2	P	4	必修

何を学ぶか

- ① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
- ② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
- ③ 科学的根拠に基づいた運動実践により、自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

使用教科書【大修館701 現代高等保健体育】

・スポーツ総合専攻1、2、3年生を専攻種目ごとの縦割り集団として、実戦的でレベルの高い専攻種目の授業を行う。

評価方法

知識・技能 40% : 基礎的な個人技能の実技テスト・自己記録用紙・自己評価用紙などを評価資料とする。

思考・判断・表現 30% : ゲームや記録会などの応用技能、自己記録用紙・自己評価用紙などを評価資料とする。

主体的に学習に取り組む態度 30% : 自己評価用紙、各課題の取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
スポーツ ⅠⅡⅢ	剣道(男・女)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	バスケットボール(女子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	バレーボール(女子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	陸上競技(男・女)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	硬式野球(男子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	サッカー(男子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	ソフトテニス(女子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-21	芸術	音楽Ⅱ	2	S・P	2	選択

何を学ぶか

- ・音楽Ⅰで学んできたものを基礎とし、音楽を身近なものとして楽しみ、芸術に親しむための基礎を学ぶ。
- ・音楽が社会の中でどのような役割を担い、音楽が活用される職業にはどのようなものがあるのか学ぶ。

学習目標

- ・音楽を身近なものとして楽しみ、芸術に親しむための知識・技能を学んでいく。
- ・社会に於いて音楽が活用される場面、職業を知り、基礎的なことを身につける具体的な方法を学んでいく。

学習方法

使用教科書【教育芸術社 703 MOUSA2】

- ・歌唱：教科書やそれ以外にも幅広い教材を用いて、独唱、斉唱、重唱をする。
- ・器楽：ギターおよびキーボードの基礎的な奏法を学び、それらを用いて小アンサンブルを楽しむ。
- ・鑑賞：映像や音源を通して、芸術を幅広く理解し音楽のよさや美しさを味わう。

評価方法

- 知識・技能 35%： 創造的な音楽表現をするために必要な知識・技能を身につけている。鑑賞では芸術を幅広く理解し、そのよさや美しさを味わって聴いている。
- 思考・判断・表現 35%： 知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けている。
- 主体的に学習に取り組む態度 30%： 音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとする。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
音楽Ⅱ	歌唱	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
	器楽	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
	楽典	■	■		■	■		■		■		■		■		■		■		■		■		■		■		■		■		■		■		■	
	鑑賞	■	■		■	■		■		■		■		■		■		■		■		■		■		■		■		■		■		■		■	
	実技テスト	■										■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-22	芸術	美術Ⅱ	2	S・P	2	選択

何を学ぶか

- ・表現力・基礎：・演習 『レタリング・基礎』（書体：明朝体、ゴシック体）。
- ・平面表現：・グラフィックデザイン 『本の装丁』 自分のお気に入りの一冊を選定し、自分なりの表現で装丁する。
- ・絵画 『空想の世界』 自由な発想で自分だけの世界や意図（構図や色彩の効果を活用）を平面手法（水彩画）で表現する。
- ・鑑賞：・過去の著名な作家や職人、諸先輩の作品やサービスなどから美的感覚、表現手法、表現意図と効果を学ぶ。

学習目標

- ・色んな印刷物には様々な書体が使われていることを知り、それらが様々な効果を生むように工夫されていることを知る。
- ・モノ（今課題では書籍）の価値や魅力を文字（書体）や平面表現によって第三者に伝える力を養う。
- ・与えられた課題の範囲内で、幅広く着原点を広げ、自由な発想をし、自ら見出した主題＝『意図』を具現化する力を養う。
- ・各作品や商品、サービスなどに込められた意図・効果を学び、自己の美的感覚や表現の幅を広げ、作品完成度の向上を図る。

学習方法

使用教科書【日本文教出版702 高校生の美術2】

- ・表現力・基礎：・演習 『レタリング』（自分の名前から）＝氏名の名の一字目を明朝体とゴシック体で描く。
- ・平面表現：・グラフィックデザイン 『本の装丁』 自分が選定したお気に入りの本を自分だけの表現で、レタリングの技術も活用して装丁する。
- ・絵画 『空想の世界』 自由な発想で自分だけの世界を表現する。（具体的なテーマは別途指示）
- ・鑑賞：・各分野の著名な作家や職人、諸先輩の作品や商品、提案物やサービスなどを教科書や資料画像を通して接する。

評価方法

- 知識・技能 35% : ・基本的な表現技能を習得し、課題に応じた表現で丁寧に（完成度高く）仕上げられたか。
- 思考・判断・表現 35% : ・課題を理解し、自ら主題を見つけ、自己の感性を働かせ、自分の意図した作品を完成するために最適な表現を創意工夫したか。
- ・素直な気持ちで様々な作品に接したり、創作に生かしたり、多様な文化への理解を深められたか。
- 主体的に学習に取り組む態度 30% : ・主体的に知識、および技能、表現力を身につけることに努めたか。
- ・課題制作に対して、困難な状況に直面しても決してあきらめず粘り強く取り組めたか。
- ・すべての作品を完成させて提出することを原則とする。
- ・出欠遅刻過多や授業態度について、点数化はしないが評価をする上での対象項目とする。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
美術Ⅱ	表現力・基礎	■	■	■																																	
	デザイン																																				
	絵画																																				
	鑑賞																																				

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-23	芸術	書道Ⅱ	2	S・P	2	選択

何を学ぶか

・漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書・篆刻を学びます。

学習目標

・「書道Ⅰ」で学んだ内容を基礎として、新たな古典の鑑賞・臨書を行い、書の文化や伝統についての理解を深めるとともに、表現力を高めます。
 ・書の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養います。

学習方法

使用教科書【大修館703 書道Ⅱ】

・漢字の書は、五体のうち書道Ⅰで学んでいない三体(篆書・隸書・草書)の古典を臨書し、仮名の書は新たに散らし書きの表現について学びます。多様な書体や古典への理解を深め、その技法をより確かなものにします。
 ・学んだ技法を活用し、自分の想いを表現する創作にもさまざまな形態で取り組みます。
 ・篆刻では刀で文字を刻すという異素材による表現に取り組み、書表現の奥深さにふれます。各工程でのさまざまな技法を根気よく積み重ねて完成した印は落款印としても活用します。

評価方法

○知識・技能 35 % :

- ・書の表現の方法や、形式・表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。
- ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身につけ、表している。

○思考・判断・表現 35% :

- ・書のよさや美しさを感じ取り、意図に基づいて構想し、個性豊かに表現を工夫している。
- ・書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりしている。

○主体的に学習に取り組む態度 30% :

- ・書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現や鑑賞の創作的活動に取り組もうとしている。
- ・書についての知識や技能を習得するために粘り強く取り組んでいる。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
書道Ⅱ	篆書	■	■	■										■	■	■																					
	篆刻				■	■	■	■																													
	隸書													■	■	■																					
	草書																■	■	■																		
	行書																			■	■	■															
	仮名																																				
	創作																						■						■	■	■	■	■	■			

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-25	外国語	英語コミュニケーションⅡ	2	A	4	必修

何を学ぶか

・「英語コミュニケーションⅠ」の学習内容を踏まえながら、まとまった英文を読む活動(主に教科書)、聞く活動(主に副教材)、表現する活動(主にライティングやスピーキングの取組)などを通じて、英語の4技能である「読む・聞く・書く・話す」力をバランスよく伸ばしていく。

学習目標

・幅広い話題について、読んだことや聞いたことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり、書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
 ・卒業時にCEFRA2～B1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

使用教科書【183 第一 CⅡ 720 CREATIVE English Communication Ⅱ】
 使用副教材【旺文社 英単語ターゲット1900】

- ① 新出単語及び熟語の意味、使い方等を理解する。
- ② 英文を読み、Comprehension、Summarize 等に取り組みながらその内容を把握する。
- ③ 既習表現を生かしたパフォーマンス課題(ライティングやスピーキングの取組)などを通して、アウトプットにつなげる。
- ④ 定期的実施する単語テストで、単語の定着を図るとともに語彙力をつける。

評価方法

知識・技能 50% : 定期考査、小テスト、課題など

思考・判断・表現 30% : 定期考査、小テスト、課題など

主体的に学習に取り組む態度 20% : 授業プリント・ノート、課題プリント、授業の取り組み状況・振り返りなど

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月				
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬					
英語 コミュニケーション Ⅱ	Lesson 1	■	■	■																																			
	Lesson 2				■	■	■																																
	Lesson 3							■	■	■																													
	Lesson 4									■	■	■																											
	Lesson 5																	■	■	■																			
	Lesson 6																	■	■	■																			
	Lesson 7																						■	■	■														
	Lesson 8																							■	■	■													
	Lesson 9																								■	■	■												
	OL 1																																						

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-27	家庭	家庭基礎	2	S・A・P	2	必修

何を学ぶか

家庭生活で必要な知識や技術を身につけるとともに、暮らしと社会の課題を結び付けて考え、新しい価値観や行動を生み出すことを目指して学習します。

学習目標

家庭科の学習は、SDGsの各目標と密接に結び付いている。家庭科の学習を通して、生活のあらゆる場面を見つめ直し、主体者としてよりよい意思決定をして、持続可能な社会を構築する力を養います。

学習方法

使用教科書【東京書籍901 家庭基礎 自立・共生・創造】

- ①授業の前に教科書に目を通して予習しておきましょう。
- ②毎時間ワークシートを記入し、ファイルに閉じて整理しておきましょう。
- ③被服実習や調理実習にも積極的に取り組み、理論を実践に結び付けて日常生活に活かしましょう。
- ④日常的に新聞や本、テレビ、インターネット等から情報を入手し、疑問を持った内容を調べ、周囲の人に提案したりしていきましょう。

評価方法

知識・技能 40 % : ・定期考査 ・被服実習(実技試験)

思考・判断・表現 30 % : ・課題学習(夏休みの宿題) ・被服実習(作品点)

主体的に学習に取り組む態度 30 % : ・加点課題への取り組み ・提出物

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
家族・社会との共生	生涯を見通す	▼	■	■									▼	▼	▼																						
	人生をつくる	▼			■	■	■	■	■					▼	▼	▼																					
	子どもと共に育つ	▼												▼	▼	▼																					
生活の自立	衣生活をつくる	▼																																			
	食生活をつくる	▼																																			
	住生活をつくる	▼																																			

